

戦争が残したものの

古堅中学校 三年一組 我如古 未来希

「沖縄戦」それを体験した人は、忘れたくても忘れられないことでしょう。でも私達のような子どもには、授業や映画、おばあちゃんやおじいちゃんの話などでしか知る事もなくそれでも、伝わりきれない部分もあると思います。

他にも、最近では平和だから、沖縄戦の事を知らうとしない人も多くなつてきてこのままでは、いつか沖縄戦を体験した人が減つてきて、戦争の悲惨さを伝える人が居なくなってしまう。また、おなじ過ちを起こしてしまふかもしれない。そのようなことか起こらないよう私達は、戦争について知る必要がある。それを次の世代へ伝えていかなければいけないと思います。

私が昔よくお喋りをしていたおばあさんは、六月二十三日慰霊の日近づくと、今だに沖縄戦の事を思い出して悲しい顔をしたりし

て、目の下にくまをつくって、体調不良にな
たりしていました。

おばあさんは私に一度だけ、沖縄争の話し
をしてくれたことがありました。

自分の父が戦争へ出されて、兄も戦争へ連
れ出されて、家は燃え、母は亡なり、妹とは
はぐれ、道を歩けば血や死体、それからくる
異臭がして、川は赤黒く、木を求める人、走
って逃る人、死体のそばで泣いている人がそ
れぞれいて、その光景をみて私達と同じ年ご

ろのおばあちゃんあんなは、複雑な気持ち
が混じって、泣けもしないで、その場で一時的に時
間が止まったかのように、つっ立っていたそ
うです。それから我に返ると必死で走って逃
げて、他の家族やけがをした軍人さんや若い
軍人さん達にあい、一緒に逃げたそうです。
それから一緒にいた人も一人一人いなくなっ
ていき、最終的には、米軍にみつきり保護さ
れ、戦争が終わり、安心感からか、悲しいシ
ンヤと終わった。助かった。という感情

かたかくなり、しばらくのありた涙がとまら
ず、あつと泣いていたという話でした。おば
あちゃんには

「助けて」

「死なないで赤ちゃん」

「もう死にたい」

「死んできます」

「国のために」

「水をくれ」

「お父さん!! お母さん!!」

などの声が今だに忘れられず慰霊の日はいつ
も寝れないみたいでした。

私はそれから沖縄戦の本を見たり、映画を
見たりしました。映画は、酷すぎて見る気が
うせたけど、本当にあつた戦争よりは、まし
なものなので、最後までみたのです。それ
以降、戦争の話をしたり慰霊の日になると
映画のカロテスクなシーンが夢にふてきたり
します。

戦争が残したもののそれは、もう繰り返して

はいけないないという感情だと私は思います。
最近では私達を含めた若い人達は「戦争を
体験をしたこともないせりが平和がいい！！」な
どといいますが平和がいいではなくて平和で
ないといけないのです。

「沖繩戦」それは人々に平和の大切さをし
らしめたものでした。戦争のことを知らない
私達はそのことを知り、平和というものを再
確認するべきだと思います。そして、この平
和の大切さを次の世代の人へかたりつぎもう
二度と、戦争という過ちをおこしてしまわな
いようにしなくてはいいけないと私は思いまし
た。